

伝統産業煙火の安全確保



有限会社片貝煙火工業 代表取締役 **本田 正憲**
Masanori Honda

日本の煙火（花火）は、16世紀中頃から火薬類の一分野として、製造技術の進展と伝承が始まったと言われている。その頃は伝統花火（仕掛花火）であり、17世紀前期に打揚花火に進化し、現在は製造技術の進化と合わせて打揚（消費）技術も進化している。このように技術者を職人と呼ばれていた時代から伝承してきた伝統産業煙火の安全構築の取り組み方、また環境の進化により生産・貯蔵・販売・輸送・消費と分業化が進み、各分野における安全構築を煙火の全体的な安全構築として取り組んでいかなければならない。

伝統産業の安全は技術者と職人が存在しており、用語も鉄砲時代から使われているもの、製造・消費の進化の過程で生まれた造語、職人の世界で使われているものと現代用語が混在している。技術伝承も職人的で「見て覚えよ、技は盗んで自分のものにする」など、職人的気質が現在も受け継がれている部分が多い。現在の煙火の安全構築を考えると、この部分を捨てることができない。現代の煙火は、芸術性が要求されることが強くなり、多品種少量生産が一層進んでいる。このよう

な中で安全構築を確保することは、難しいが真剣に取り組まなければならない。現社会の安全対応を真摯に受け止めなければ、伝統産業花火として生き残れないと思う。

また消費においても、火薬産業の中で観衆を集めて火薬を消費するのは、煙火産業だけだと思う。第三者を集めて火薬の持つ特徴を利用し、表現している産業であるが故に、安全確保を早急に構築しなければならない。

日本の花火は独自の進化発展を遂げ、いまやその技術は世界一と言われています。真の世界に誇る技術とスケールを持つエンターテインメントであり続けるには、基本的なところはマニュアル化を進め、安全化に向けた施設・設備を構築し、勘と経験に裏付けされた職人的安全管理が必要なところは伝承し、マニュアル化ができるところは真剣に取り組み、世界一安全な花火を目指し、伝統を継承していきたい。

総合安全工学研究所の皆様方のご指導と研究・事例を柔軟に取り入れて、伝統産業煙火を発展させることを望んでおります。

公益財団法人総合安全工学研究所 役員

理事長 田村 昌三 東京大学名誉教授
(代表理事)
専務理事 小川 輝繁 横浜国立大学名誉教授
(執行理事)
常務理事 福富 洋志 横浜国立大学大学院教授
理事 篠原 一彦 東京工科大学教授
理事 都築 正和 東京大学名誉教授
理事 高木 伸夫 (特非)安全工学会副会長
(有)システム安全研究所所長

理事 花岡 一雄 東京大学名誉教授
JR東京総合病院名誉院長
理事 丸山 修 住友化学(株)執行役員
理事 三宅 淳巳 横浜国立大学大学院教授
理事 安原 洋 東京大学医学部付属病院教授
理事 若倉 正英 (独)産業技術総合研究所研究顧問
(特非)安全工学会保安力向上センター長
監事 田中 保正 元(一社)日本芳香族工業会専務理事
監事 向殿 政男 明治大学名誉教授